

Title	行動経済学的アプローチによる価格づけ行動および労働市場分析
Author(s)	久米, 功一
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/49074
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	く め こう いち 久 米 功 一
博士の専攻分野の名称	博 士 (経済学)
学位記番号	第 2 1 7 2 8 号
学位授与年月日	平成 20 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 経済学研究科経済学専攻
学位論文名	行動経済学的アプローチによる価格づけ行動および労働市場分析
論文審査委員	(主査) 教授 大竹 文雄 (副査) 教授 筒井 義郎 教授 池田 新介

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、行動経済学的なアプローチによって価格づけ行動および労働市場を分析したものであり、全三部からなる。「第 1 部 価格づけ行動」では、くじや保険に関する仮想的な質問による実験やアンケートの結果を用いて、くじや保険の価格づけ行動を分析している。第 1 章「繰り返し実験における価格づけ行動—くじの売買データを用いた実証分析」では、くじの売買取引の繰り返し実験から得られた動学パネルデータを用いた被験者の価格づけ行動、第 2 章「くじの保険に対する価格づけ行動—日米のアンケートデータを用いた実証分析」では、日米で実施されたアンケート調査の結果を用いた「くじ」に対する売買価格の乖離の原因、第 3 章「くじと保険に対する需要分析—開発途上国のマイクロデータを用いた実証分析」では、開発途上国の家計調査データを用いた「くじ」と保険に対する家計の需要、についてそれぞれ実証的分析を行っている。

「第 2 部 リスク、選好パラメータ、労働供給」では、労働経済学の分野に行動経済学的な視点を持ち込み、賃金分布や失業リスクに対する労働者の嗜好、時間選好、危険回避度の違いを考慮した労働市場分析が行われている。第 4 章「所得と雇用の変動リスクと賃金プレミアムの実証分析」では、賃金と雇用の変動リスクに対する補償賃金仮説の妥当性について検証している。第 5 章「危険回避度、時間選好、労働供給の実証分析」では、選好パラメータの個人の異質性に注目して、労働供給関数から導かれる危険回避度の整合性や、時間選好率の労働供給に対する影響を分析している。第 6 章「危険に対するセルフセクションと補償賃金仮説の実証分析」では、危険を伴う仕事に対する個人の嗜好を考慮したモデルを用いて、補償賃金仮説について実証分析されている。

最後に「第 3 部 幸福度、社会的相互作用」では、個人の幸福感や他人の行動からの影響が分析されている。第 7 章「幸福感は所得に影響を与えるか—パネルデータによる実証分析」では、幸福感と所得の因果関係を明らかにして、幸福感が所得に与える影響について検証されている。第 8 章「持ち家のソーシャル・キャピタル形成に与える影響に関する実証分析—泉北ニュータウンの住民アンケートを用いて」は、隣人への信頼、ごみ出しのマナー等の程度で計測されたソーシャル・キャピタル (SC) に注目して、人々の SC への投資の近隣効果があることを実証的に示している。

論文審査の結果の要旨

本論文は、危険回避度、時間選好率といった選好パラメーターおよび幸福感について、経済実験データおよび統計データを用いて、伝統的経済学と行動経済学の両方のアプローチから実証的分析を行ったものである。データを巧みに使って、様々な経済学的仮説を検定することで多くの興味深い結論を導いている。特に、新しいアイデアを実証研究にもっていく力は高く評価できる。したがって、本論文は、博士（経済学）に値すると判断できる。